

特定非営利活動法人 日本免疫学会
2024年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	佐々木悠斗	会員番号	0036268	
申請者の所属・職名	北海道大学大学院 薬学研究院 研究員			
出席会議名	The 9 th Federation of Immunological Societies of Asia-Oceania Congress (FIMSA 2024)			
発表論文タイトル	Possible Therapeutic Application of STAP-2-derived Peptide to Autoimmune Disease			

実施結果:

この度は、2024年度後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択いただき、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめ選考委員の先生方、推薦してくださいました松田正教授、事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。



本 Travel Award のご支援のもと、2024年10月23日から27日の5日間、台北国際会議場(台湾)にて開催されました The 9th Federation of Immunological Societies of Asia-Oceania Congress (FIMSA2024)に参加し、口頭発表をさせていただきました。本学術集会は3年に1度、アジア-オセアニア地域を中心とした研究者が集う場でございます。発表テーマとしてはおおまかに「宿主-病原体相互作用」「自己免疫疾患」「炎症」「がん免疫」「アレルギー」のセッションがあり、Coffee break の時間ではポスター発表や研究者同士のディスカッションの時間を過ごしました。各分野での著名な先生方によるシンポジウムはもちろんのこと、若手研究者による口頭発表では論文を読むだけでは知ることのできない考え方や実験の進め方も聴講することができ、大変刺激を受けました。

私自身も上記テーマにて、当研究室で以前報告していた基礎研究を臨床へと繋げるアプローチを提案し、幸いにも「Best Paper Award」賞に選出していただきました。質問セッションでは鋭い質問やご指摘をいただき、本研究をさらに深めるための視点を得ることができました。さらに、質問のセッションだけでなく発表が終わってからも個人的にさまざまな質問やアドバイスを投げかけてくださった研究者の方もいらっしゃり、大変有意義な時間を過ごすことができました。恥ずかしながらこれまでに国内で参加した学会では、発表時間外に積極的にサイエンスの議論を交わすことがなかなかできていなかったため、私自身のマインドとしても身の引きしめる思いでした。今後国内外関わらず参加させていただく学会では、積極的に議論を交わすことを当たり前の姿勢とするべく精進して参ります。何名かの研究者とは名刺交換も行うことができ、将来的に共同研究等によって新たな発見ができる可能性ができたことだけでなく、将来のキャリアなどについてもフランクに意見を交わし合えたことは研究者として大変嬉しく思います。

末筆ではございますが、この度はこのような大変貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。今後も支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、高い志をもち研究に励み免疫学の発展に貢献できるように邁進していきたいと思っております。引き続き皆様のご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。